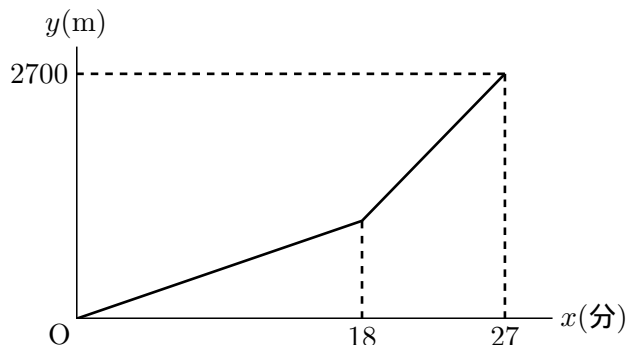


こんな一次関数の利用のグラフはどうするの。



```

%begin{pszahyou*}[xscale=0.35,yscale=0.2,ul=6mm](0,30)(0,30)…①
%tenretu*{A(18,10.8);B(27,27);AA(18,0);BB(27,0);BBB(0,27)}
%Put%AA[s]{18}
%Put%BB[s]{27}
%Put%BBB[w]{2700}
%Put%O[sw]{0}…%O は特に指定しない限り原点と認識するようです。
%Put{(0,30)}[n]{y(m)}…②
%Put{(30,0)}[e]{x(分)}…③
%Drawlines{%O%AA%BB;%XMAX%O%YMAX}…④
%Hasens{%BB%B%BBB;%A%AA}
%end{pszahyou*}

```

ここで、今までと少し変わったところは、①の {pszahyou*} (軸を表示させない) と xscale=0.35, yscale=0.2 でしょう。xscale=0.35, yscale=0.2 の意味は、スケールダウン (1 より大きければ拡大) を表します。これは (0,30)(0,30) の範囲を 1:1 の割合で丸まる表示させると、表示自体が大きくなってしまいます。そこで縮小する役割をこのコマンドで行っています。放物線のところでも少し役に立つかもしれませんよ？

②, ③は軸のラベルの張り付け。
 ④で、重要なのは軸の表示です。①で {pszahyou*} とし表示しない代わりに、%Drawline で %XMAX%O%YMAX を直線で書きなさいとしています。これは x 軸の最大値座標 (30,0) から原点 O を結んで y 軸の最大値座標 (0,30) を結びなさいという命令です。これで軸を書くことができます。これは結構重要コマンドです。